

世界ダム委員会（WCD）10周年記念イベント ダムをめぐる新たな議論 河川開発の国際潮流と日本

今から10年前、1つの報告書が世界のダム開発の潮流に衝撃的な影響を与えました

2000年、世界ダム委員会^{*}(WCD: World Commission on Dams) は2年半にわたって世界のダム125箇所を調査し、問題点を分析した最終報告書を発表しました。この報告書は、大型ダムが大規模な移転や環境破壊をもたらすこと、また経済的・技術的にも必ずしも有効とは言えないことを明らかにし、ダム開発のあり方を根本的に見直す画期的な提言を行いました。報告書が発表されてから10年、ダム開発を巡る日本や世界の動向はどうなったのでしょうか？日本では、民主党政権になりダム建設に関する政策変更を巡り議論が巻き起こりました。一方、国際的には、水力発電ダム業界によるダム建設に関する基準の作成、大型ダム開発への新たな資金源としての「新興国」の台頭などの、新たな課題が出てきました。

本セミナーでは、特に世界ダム委員会の報告後の国際的なダムを巡る状況、また、海外および日本のダム開発の問題や状況の変化について考え、ダム開発への今後の対処の方向性を探ります。

※世界ダム委員会(WCD): 世界銀行のイニシアティブの下、大型ダム開発の有効性の検討や水資源・エネルギー開発の代替案の検討、ダム事業に関連する国際基準の作成を目的に設立。多様なステークホルダーが委員として参加し、1998年に活動開始。

2011年1月12日(水) 14:00~16:45 (13:30開場)
国立オリンピック記念青少年総合センター

プログラム(予定)

- ① 基調講演「WCD報告書以降のダム開発を巡る世界の動き」(逐次通訳)
マイケル・サイモン氏
(オックスファム・オーストラリア / Hydropower Sustainability Assessment Forum^{*}委員)
※ 国際的な水力発電の業界団体である国際水力発電協会 (IHA) が今年策定した「水力発電における持続可能なアセスメント手続き」に対し、レビューおよび勧告を行うもの。サイモン氏は、先進国・途上国政府、銀行、NGO、世界銀行など様々なセクターのメンバーで構成された同フォーラムの委員
- ② 事例報告「海外のダム開発の現場における問題・状況変化」
 - (1) 「WCDが調査したダムの提示する新旧の課題」～フィリピン・サンロケ多目的ダム事業～
波多江秀枝 (FoE Japan 委託研究員)
 - (2) 「住民パワーが運転を止めたダム事業の行方」～タイ・パクムダム事業～
木口由香 (メコン・ウォッチ)
- ③ 「政権交代後の日本のダム事情」～なぜか迷走 さてどうしよう!!～
遠藤保男 (水源開発問題全国連絡会)

お問合せ
申し込み

国際環境NGO FoE Japan (担当:柳井・清水)
E-mail: finance@foejapan.org
TEL: 03-6907-7217
※ Eメールもしくは電話で、所属・お名前・連絡先をお伝えください。



イベント情報

- < 定員 > 120名
- < 参加費 > 一般 1000円 / 主催団体・協賛団体会員 無料
- < 会場 > 国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟第2ミーティングルーム
(小田急線参宮橋駅下車 徒歩約7分)
- < 主催 > 国際環境NGO FoE Japan、水源開発問題全国連絡会、
メコン・ウォッチ、RWESA-Japan
- < 協賛 > 「環境・持続社会」研究センター

